

令和5年度 課題設定報告会（2年人文社会科学科・理数科学科）

令和5年5月25日（木）6・7限に、2年人文社会科学科、理数科学科80人が課題研究の課題設定報告会を行いました。

人文社会科学科は国語、地歴公民、英語の各班計6班、理数科学科は物理、化学、生物、地学、数学の各班計13班、合計19班が、課題設定の理由や研究の進め方について、それぞれ発表しました。

国語1班は、「時をかける文章～定番の教科書文学とは？～」というテーマのもと研究を行います。日本では小学校から高校まで「国語」を学んでいますが、その教材の中には、親や祖父母世代が学んできたものも数多くあり、長年教科書に掲載されている作品にはどのような特徴があるのかを解明したいと考えています。



国語1班の発表の様子
(視聴覚室会場)



スライドを用いて発表する化学2班
(化学室会場)

数学1班は、「ポーカー無双論2」というテーマを設定しました。過去に先輩たちが研究していた内容を発展させ、さらに勝率を上げることができるのではないかと考えました。「勝率×賭け金」の「期待値」の考察を加え、カードの枚数や数字、マークなどを考慮しながら研究を進めていく予定です。

発表後の質疑応答では、本校教員や富山大学・富山県立大学の教員から、「予備知識や先行研究をしっかりと押さえよう」や、「アンケートをとる場合はどのような設計にするかをよく考えよう」、「実験条件をしっかりと絞って実験しよう」、「関連する分野の研究も見てみよう」など、多くのアドバイスをいただき、有意義な会となりました。



生徒間でも積極的に質疑応答が行われた
(物理室会場)

報告会終了後は、大学の先生を交えて、班ごとに、研究内容や研究方法の再検討を行いました。

課題研究は、今後、中間発表会（9月30日）、三校合同発表会（12月17日）、校内発表会（1月24日）と進めていく予定です。



報告会后、大学教員からさらに助言を受けている様子